

Report

Hokkaido Soil Research Cooperative Association

SRC



2022. 1
No. 392

ISSN 1342-1409

北海道士質試験協同組合広報誌



謹賀新年

表紙写真 虎

[写真説明]

大阪市天王寺動物園、アムールトラの風(ふう)くん、2歳オス



1. 新年のご挨拶	1
理事長 榑保二	
2. 巻頭言	2
川崎地質株式会社 北海道支店 支店長 加藤猛士	
『地質関連業界の人材について ～着任のご挨拶とともに～』	
3. 「現場における地盤調査法の基本講習会」参加報告	4
技術部 平伸明	
4. 令和3年度第5回理事会議事録	6
5. 北海道大学農学部学生実習を開催	7
山内昇	
6. 部門別試験実績	8
10・11月分	



『新年のご挨拶』

理事長 榊 保 二

明けましておめでとうございます。

平素は当組合に格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

新型コロナウイルスによる影響が懸念されておりますが、組合員の皆様、並びに関係の皆様におかれましては、幸多き一年となりますように心よりお祈り申し上げます。

昨年を振り返りますと、新型コロナウイルスに対する取り組みが欠かせない日々は2年目となりました。感染症の防止策としての在宅勤務、時差出勤、Web会議など、人との交わりを低減する対策が求められ、私たちの暮らし方、働き方に大きな変化をもたらしました。そのような状況が続いておりましたが、10月の「緊急事態宣言」解除とともに街には少しだけ賑やかさが戻ってまいりました。

新型コロナウイルスの一日も早い収束を心から願っております。

また、感染拡大が続く中で、1年延期となった「東京オリンピック・パラリンピック」は開催の賛否で世論が揺れていましたが、ほとんどの会場で無観客となる異例の大会となりました。ただ、競技が始まるとアスリートたちの躍動がテレビで観戦する私たちの心を動かししました。さらに日本選手団は過去最多となるメダルを獲得し華々しい活躍を遂げました。

さて、当組合の令和3年度の売上目標は245,000千円に設定しスタートいたしました。コロナ禍の影響により昨年度同様に試験試料搬入の遅れなどがありましたが、下半期への業務集中を見越して早めに試験補助要員を増員するなど稼働体制の強化に取り組んでおり、業務は計画通りに推移しております。また、平成30年度より開始された国土地盤情報の検定業務は着実に検定数が増えており現時点では昨年度の約1.4倍の実績を上げております。設備につきましては自動コーンペネトロメーター貫入機、一軸強制練りコンクリートミキサーの新規導入と自動突き固め試験機、試験用データロガーの更新を行いました。

今後も多様化するニーズにお応えできるように役職員が一丸となって取り組んでまいります。

「寅年」は芽を出したものが「成長していく(見えてくる)」年やこれから成長する物事の「象徴が生まれる(始まる)」年と言われております。どんな状況の中でも前へ前へと躍進できる年になることを願っております。

組合員の皆様、並びに関係の皆様のご健勝とご発展をお祈り申し上げ新年のご挨拶といたします。本年もよろしくお祈り申し上げます。



『地質関連業界の人材について ～着任のご挨拶とともに～』

川崎地質株式会社 北海道支店
支店長 加藤 猛 士

令和3年4月に前任の吉田から引き継ぎ、弊社の北海道支店に着任いたしました加藤と申します。ご挨拶申し上げる機会を賜りましたこと、関係各位に御礼を申し上げますとともに、ご指導およびご鞭撻を賜りますよう、お願い申し上げます。

誠に僭越ではございますが、本号では、地質関連業界(以下、当業界という)の将来を担う人材について、少しだけお話しさせていただきます。

リクルート活動や社員研修、学協会活動等を通じて接してきた若手の地盤・地質技術者の多くは高校や高専、大学あるいは大学院等で理学や工学等の専門的な教育を受けられており、学生時代に学ばれたことを糧として社会に貢献されていることに、素直に敬意を感じます。このようなプロセスは社会の仕組みとして当たり前な行動と受け取ることもできますが、それを実践されているたくさんの方々の積み重ねが、当業界を支える大きな柱となっているのは言うまでもないかもしれません。そして、今もなお、多くの学生諸子が当業界を目指しあるいは志していただいている状況から、当業界の将来への期待を持つことができます。

ここで、弊社を例に話をさせていただきますと、近年、従業員の中間的な年齢となる40代半ばを境として、年齢が高い従業員と若い従業員の人数は概ね同じとなってきました。ここ10年ほどで若手の地盤・地質技術者が増加しています。このような若手の増加に伴って社内で課題となってきたのが人材育成と技術継承です。一方、若手の地盤・地質技術者は、日々の自己研鑽の他、業務経験の積み重ねや社内外の教育・研修等を通して、地盤・地質技術者として成長の道を歩んでいます。昨今では、これらの取組みに加えて、働き方改革やメンタルを含めたヘルスケア等の労働環境も整備されています。

では、若手の地盤・地質技術者の成長に必要な人材育成と技術継承のあり方とはどのようなものか、企業の管理者としての立場から述べてみたいと思います。

はじめに結論的な話をさせていただきますと、人材育成を行うということは、若手の地盤・地質技術者自身が自律して業務に対面することができるよう、その意識付けと業務環境の整備に努めることであり、技術継承を行うということは、若手の地盤・地質技術者が主体的に業務の全体もしくは一部を担当することによって経験を積むことができるよう、任せる範囲と目的を明確に示すことであると考えています。

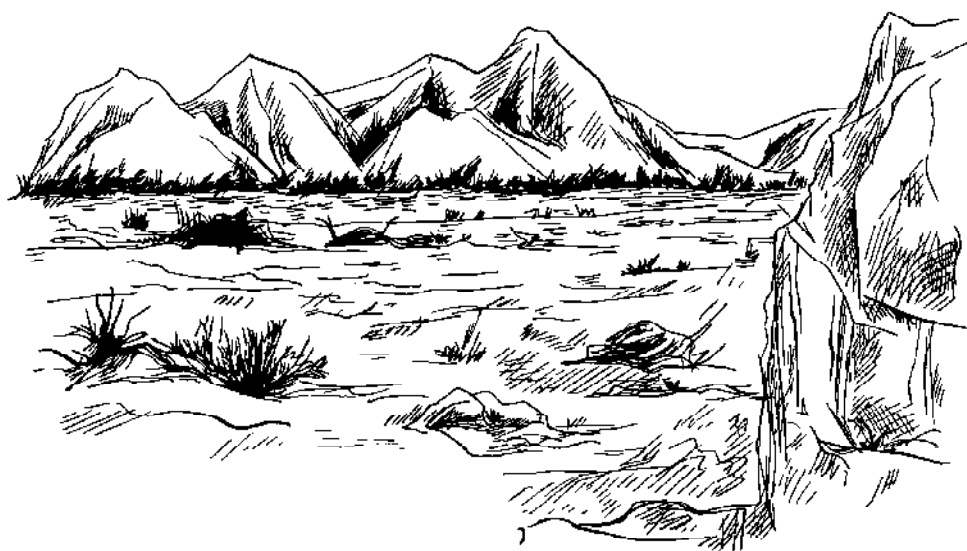
今はタブー視される『俺の若い頃は』の話は、放任されたことを言いたいのではなく、仕事を自律的に頑張ることによって成長してきた経験を伝えたい思いが見え隠れしているのではないのでしょうか。『俺の若い頃は』と言い続けてみませんか。

さて、企業では地盤・地質技術者だけではなく、営業や総務・経理等を専門とする方々も活躍されています。全体的な構成に対して少数になるかもしれませんが、次世代を担う若手・中堅が不足している状況も多いのではないかと思います。また、同様に、人材育成と継承が課題になっていることが推察されますが、その解決方法は、上記した地盤・地質技術者に対するものと大きくは変わらないのではないのでしょうか。なお、営業の社会では、先輩と若手営業マンが一献傾けながら本音を語り合い、議論することで信頼関係を深くするような世界が今もなおどこかにあるような気がします。個人的にこのような人間臭さが大好きです。もちろん、このような世界は技術、総務および経理などにも通じる現状かもしれません。

以上、ここまでの話にお付き合いくださった皆さまに感謝申し上げます。新型コロナウイルス感染症が早く収まることを祈念し、仕事や人、色々な情報について多くの皆さまと語り合うことができる機会がやってくることを願っています。

本年も、どうぞよろしくお願い申し上げます。

—了—



「現場における地盤調査法の基本講習会」参加報告

技術部 平 伸明

当組合では、教育訓練の一環として若手職員を中心とした定期的な講習会への参加者を募っています。今回は、2021年11月17日、Zoomウェビナーにて開催された、地盤工学会主催の『現場における地盤調査法の基本講習会』に3名が参加しました。

講習内容と合わせて、参加職員の提出レポートから受講の感想を一部抜粋して紹介いたします。

○講習の内容

1. 地盤の構成から読み取る情報(東電設計(株)水道講師)

地盤の利用形態ごとに、各種凶面から地盤の問題点を読み取る方法や、問題解決を意識した地質図・地盤図の作成方法についての解説。

2. 地盤の調べ方と設計への反映((株)地圏総合コンサルタント 佐渡講師)

丘陵地や山岳地に構造物を築造する場合には支持地盤として岩盤の評価が重要視される。今パートでは、岩盤についての支持地盤あるいは地盤を掘削する場合の評価についての解説。

3. 地盤の調べ方と設計への反映(中央開発(株)今村講師)

今パートでは地盤の調べ方と設計への反映について、支持地盤及び地盤を掘削する場合の土質に関する評価についての解説。

4. 地盤の調べ方と設計への反映(基礎地盤コンサルタンツ(株)山本講師)

地盤を材料として利用する場合の、対象とする材料の範囲・材料として用いる際の特徴とその試験方法・土木構造物に応じた材料の実例(ダム堤防、道路盛土、河川堤防)についての解説。

5. 地盤の問題解決のための技術と動向(第6章、小川講師)

地盤調査の中で用いられる具体的な調査・試験の技術について、その動向や利用法における留意点の説明や、近年新たに開発された手法や今後注目される手法の一部についての特徴や事例を紹介。

以上の5セクションからなる講習となっており、日頃からこのような問題に対して、依頼された試験を行っている参加職員にとっては非常に興味深く、勉強になる講習会であったのではないのでしょうか？

○参加職員の感想

- ・現場の試験で得た結果を細大もらさず正確に伝えることが重要であると感じました。
- ・丘陵地では「支持力不足」、「地山の不安定化」等が問題となりそのために現場で把握した調査結果を検討する必要がある、「エンジニアの判断」が工事の成否や施工に多大なる影響をもたらすことについて述べられていて、勉強になりました。
またトンネルを掘削する際には計画の段階から多大なる労力をもって施工していくので、率直に凄い！と感じました。
- ・特に地滑りや地盤の液状化に関しては、「北海道胆振東部地震」で実際に起こったことで、私も何回か厚真に行き、周りの景色がはげ山だらけになっているのをみて、青ざめた記憶があります。

(原位置試験担当:小笠)

- ・現場調査を行う上での勘所を押さえる事を目的に構成されており、一部は大学の座学で学んだ内容のおさらいと感じる部分があり懐かしく感じました。
- ・地盤調査と聞いてとっさに浮かぶのはボーリングや土質試験くらいだったのですが、実際は非常に複雑であり、地質学・地形学・水理学など様々な知見に加え現場での調査や地質調査の結果を用いて総合的に判断をしていかななくてはならないのだと講義を通じて思い出す事が出来ました。
- ・私の担当する業務は、年月を重ねるにつれ慣れると同時に単純作業という認識が強くなっていたのですが、こういった事例に関して無関係と言えるものではないので、受注している試験のデータは大切な調査資料であるという自覚を持って日々の業務にあたらなければと感じました。

(化学・分析試験担当:大和田)

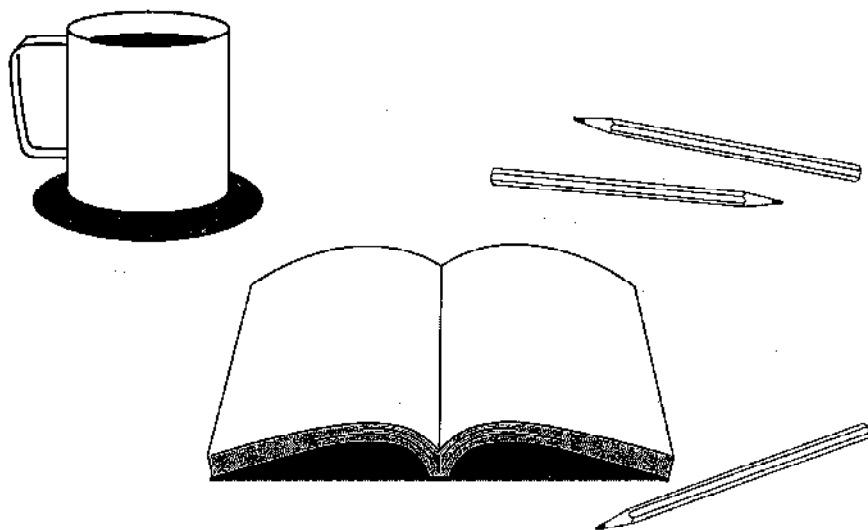
- ・顧客のニーズや目的を理解する上で、顧客がどのような試験を求めているかを共有するために勉強できた事が有意義だった。
- ・河川堤防盛土の適用性としては、材料の物理試験、品質確保では締固め試験、透水試験の実施が必要になる。また、不良土と判定された材料を使えるようにするために配合を行うなど、顧客の要求するニーズに対応しつつ、定められた基準を満足するように品質に対して検討を進めることが試験者として必要な心構えである。
- ・地盤問題のメカニズム、設計の考え方から土質試験検討・依頼までの流れを勉強することができた。

(力学試験担当:高橋)

今回の受講から、土質試験や分析試験結果などの地盤情報は、設計や施工にかかわる重要なパラメーターであることを十分に理解し、得られた結果を常に意識して、今後の業務に活かしていただきたいと思います。また、今後も継続的に講習会への参加を募り、教育訓練を行っていきたいと考えています。

令和3年度 第5回理事会 議事録

1. 開催日時	令和3年10月27日(水) 午後1時30分
2. 開催場所	組合会議室
3. 理事の総数	6名
4. 議事の経過の概要	<p>議案(1) 事業報告</p> <p>令和3年度9月の事業実績について資料に基づき説明した。受注・売り上げは、計画をやや上回っており、原価・管理費が昨年より若干下回っていることを説明した。また、業務が徐々に稼働してきた事も報告し、今後の受注見込みについても報告した。</p> <p>(有)共同上質試験の営業実績についても審議し、計画売上をやや上回っていることを報告した。</p> <p>議案(2) その他</p> <p>ア. ジオ・ラボネットワーク経営懇談会臨時会(名古屋)へ、11月2日に榊理事長と折笠専務理事が出席する予定であることを報告した。</p> <p>イ. 令和3年10月2日に19名が参加して第5回SRC理事長杯ゴルフコンペが開催され、基礎地盤コンサルタンツ(株)北海道支社の榊氏が優勝したことを報告した。</p> <p>ウ. 前期高齢者(65歳以上)職員の雇用について協議し、当組合においても本年4月の高年齢者雇用安定法の改正に従い、特別な技能有資格者、高度な技術技能を有した者、職場や顧客にとって不可欠な職員については、個別に雇用契約を結び、柔軟に対応することを承認した。</p> <p>エ. 次回理事会は、令和3年12月15日(水)に開催する事を決定した。</p>



北海道大学農学部学生実習を開催

山内 昇

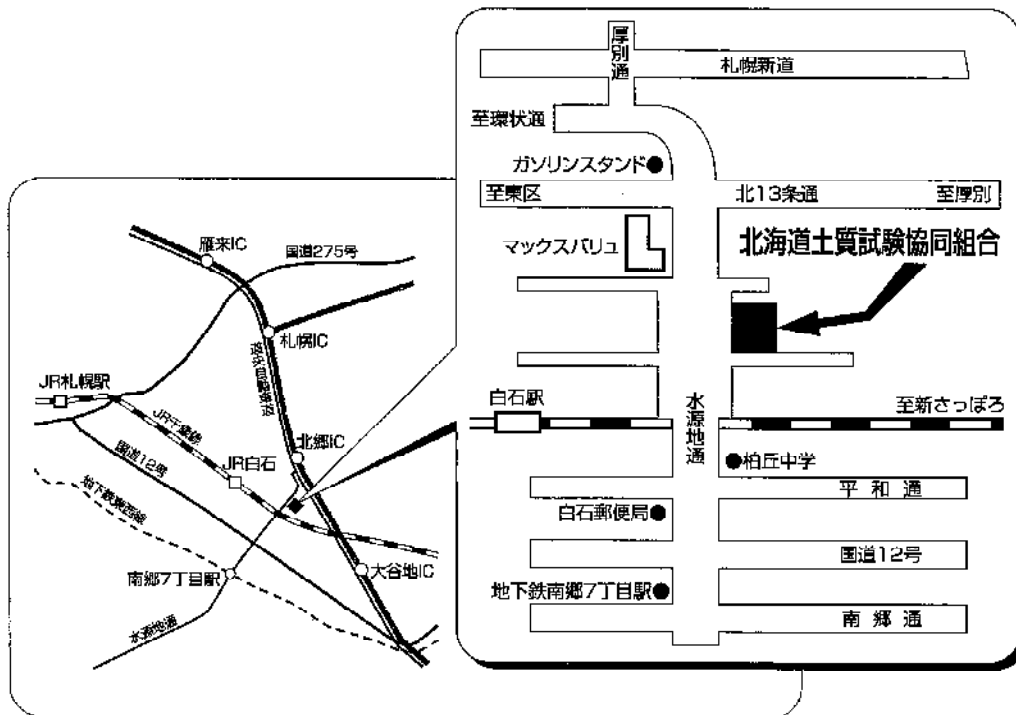
昨年度は、コロナ禍のためリモートによる実習でしたが、今年度は通常通り当組合にて北海道大学農学部の井上教授・大沢先生をはじめ学生14名が12月3日(金)に土質・コンクリート試験の実習を行いました。実習は、最初に研修室において折笠専務理事から土質試験協同組合の組織について説明があり、土質試験とコンクリート試験に関する説明を山内昇と金谷哲也が行いました。その後、土質試験室にて実際の試験状況を見学し、コンクリート試験では、実際にミキサーで練混ぜ試験を行いプレーンコンクリート・AEコンクリート(AE減水剤使用)の違いをスランプ・空気量試験からフレッシュコンクリートの性状を体験し、硬化コンクリートの圧縮強度試験を見学し実習を終えました。



研修状況写真



コンクリート試験見学状況写真



① 高速道路を利用した場合

旭川方面から 札幌IC出口より 約10分

小樽方面から 大谷地IC出口より 約10分

室蘭方面から 札幌南IC出口より 約15分・北郷IC出口より 約8分

② 国道を利用した場合

旭川方面から 国道12号から水源地通りを右折

小樽方面から 札幌新道(国道274号)から厚別通りを右折し水源地通りを左折

室蘭方面から 国道36号から水源地通りを右折

③ 公共交通機関を利用した場合

JRを利用した場合 JR白石駅下車、徒歩約15分

地下鉄を利用した場合 市営地下鉄東西線、南郷7丁目駅下車、徒歩25分

又は、北海道中央バス(白25番)に乗り継ぎ、北郷2条8丁目下車

●発行所

北海道士質試験協同組合

〒003-0831 札幌市白石区北郷1条8丁目3番1号

TEL 011-873-9895 (代表)

FAX 011-873-9890 (総務部)

FAX 011-874-1910 (技術部)

ホームページアドレス <http://www.src.or.jp/>

地質調査業者登録

土壤汚染指定調査機関登録

ISO/IEC17025:2005認定登録

●発行日

第392号 令和4年1月15日

●編集責任者

折笠 章

●印刷

株エーシーピー TEL 231-7575

